

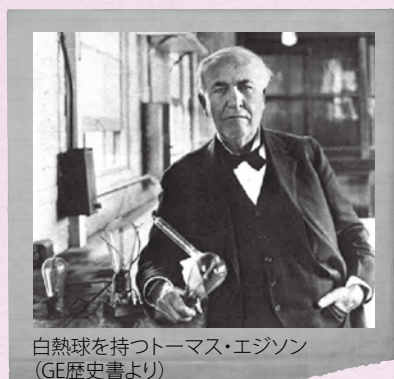


藤森 義明

LIXILグループ
相談役



GE
入社時代



白熱球を持つトーマス・エジソン
(GE歴史書より)



合併事業調印式(1988年2月10日)



GLP研修(ドイツにて、1989年)

トーマス・エジソンが最初に商業規模にたる白熱電球で人類に明かりをともしたのは1879年の10月。メンロパークの研究所で40時間ともし続けた。これがGEの始まりでもある。

やがて白熱電球はより電力消費が少ない蛍光灯へと変わっていく。私がGEに入社したのは1986年、35歳のときだ。入社後半年でジャック・ウェルチに私が最初に手掛けた医療のプロジェクトが認められ、すぐに大きなアサインメントがやって来た。GEと東芝の蛍光灯に関する合併の話だ。日本と米国で販売できる蛍光灯を、GEと東芝の技術を合わせてオハイオ州にある工場で大量生産をするという合併事業を成立させた。

写真はコネチカットにあるGE本社での調印式である。医療器のプロジェクトに続いて2度目の本社訪問。1988年2月だ。左がウェルチ、右端は私だがずっと立ったままだった。

それから半年、1989年に私はGEのキャリアで大きな選択

を迫られた。ライティング部門本社で自分が成立させた合併のプロジェクトリーダーか、アジアの医療器部門のM&Aの責任者。私は医療器を選んだ。1980年代後半、医療器部門はフランスの会社の買収、日本では横河電機との合併と急速にグローバル展開をしてい

たのが魅力的だった。

医療器部門に入ってすぐ私はグローバル・リーダーシップ・プログラム(GLP)に参加した。米国、ヨーロッパ、アジアから選抜された50人が1年間の教育を受ける。第1回目の研修はドイツで行われた。毎日の半分はチームビルディングだ。チームで筏^{いかだ}を設計、作成し、キャプテン(私、写真中央)を無事に対岸まで運ぶこと

が課題。文化の違う人たちがあっという間に一つのチームになる。私はダイバーシティとグローバルの素晴らしさを痛切に感じた。GEに入ってから最初の3年間はあっという間に過ぎたが、グローバルなリーダーとして働けるという自信をつけた貴重な時期であった。